

(1) 名称について

訪れた人がエリアからエリアへ旅先を“巡る”、にぎわいが“巡る”ように、エリアの拠点性を高めるとともに、周遊の仕組みづくりを進めることが重要です。

この「巡る」という言葉と本地域の拠点や官民連携を象徴する言葉を繋げた名称が「焼津めぐる戦略 (MEGURU)」です。

M: Marine (海)
E: Engagement (協働)
G: Gateway (玄関＝駅・港)
U: Urban (まち)
R: Relation (つながり)
U: Unite (ひとつになる)

(2) 戦略の体系

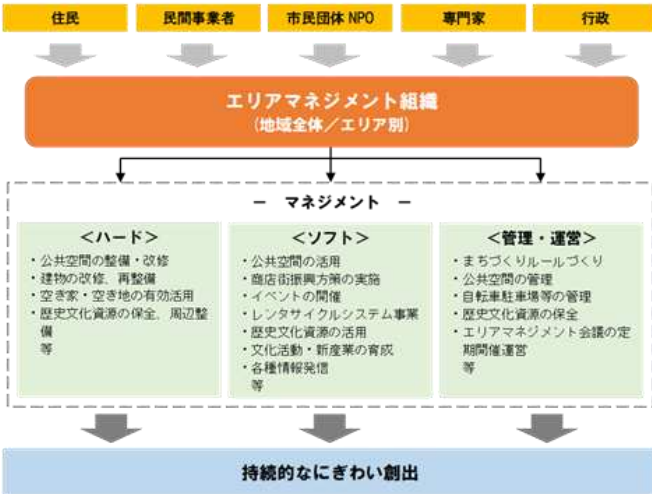
戦略Ⅰ 地域特性を活かした魅力的な6エリアの形成

**戦略Ⅱ にぎわい創出を促進する
2(ダブル)サーキュレーションの形成**

戦略Ⅲ 官民連携によるエリアマネジメントの推進

(4) (戦略Ⅲ) 官民連携によるエリアマネジメントの推進

戦略Ⅰ・Ⅱを持続的に進めていくため、市民・事業者・行政が連携してまちづくりを進めていくエリアマネジメントに取り組み、エリアマネジメント組織の整備を推進する。



(3) (戦略Ⅰ) 地域特性を活かした魅力的な6エリアの形成 (戦略Ⅱ) にぎわい創出を促進する2(ダブル)サーキュレーションの形成



焼津駅前エリア

市の玄関口となる主要な交通結節点であり、玄関口に相応しくシンボル性と利便性を兼ね備えた駅舎や駅前広場の再編等により、多様な人々が暮らし、集い、交流する、にぎわいの創出を目指す

駅前通り商店街エリア

JR焼津駅と市役所や焼津漁港(新港)を結び、ターントクルこども館等との連携により、空き店舗等の活用促進による商店街の再生を図り、生活の利便性向上と多様な人々の交流の創出を目指す

市役所庁舎・商店街エリア

市役所周辺を新たな交流拠点として活用を図るとともに、2つの商店街における商業機能の維持向上及び空き店舗・空き地の利活用やイベント開催等により、市民の交流とにぎわいの創出を目指す

内港エリア

市街地と近接し、JR焼津駅からのアクセスが良く、漁港背後地の防護を目的とした防潮堤整備とともに、風情ある景観や水産関連施設等を活かした、にぎわい交流拠点の形成を目指す

浜通り周辺エリア

漁業・水産加工業の発展と歴史を伝える、風情ある街並みが残る浜通り等の景観の向上やネットワークの形成を図り、歴史的建造物等の有効活用により、歴史文化の継承と交流人口の拡大を目指す

新港エリア

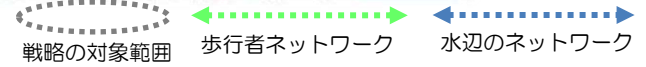
富士山や駿河湾の眺望、海辺の魅力、さらには既存施設や周辺未利用地の広大な空間を効果的に活用し、新たな観光交流拠点の構築により、広域からの集客や来街者の獲得を目指す

まちなかサーキュレーション

焼津駅前エリア、駅前通り商店街エリア、内港エリアを繋ぐゾーンとして、市民の都市活動、住民の生活活動、観光交流が積極的に行われ、サーキュレーションのように多様な人の動きを生み出すことにより、市内で最もにぎわいあるゾーンの形成を目指す。

うみまちサーキュレーション

市役所庁舎商店街エリア、浜通り周辺エリア、新港エリアを繋ぐゾーンとして、まちなかサーキュレーションで創出されたにぎわいをいざない、新港エリアを中心に観光交流が展開されるゾーンの形成を目指す。



- 〇歩行者ネットワーク・水辺のネットワークの推進**
- 道路の幅員確保、美装化、緑化等による魅力的な歩行空間を整備
 - 誘導サインの設置、マップ作成、スマホアプリの活用等による情報発信
 - ネットワークの交点は公園や低未利用地を活用したシンボリックな空間を整備

- 〇快適で多様性のある移動手段の導入**
- コミュニティサイクル
 - 小型EV
 - 自動運転EVバス

